

日本丸メモリアルパークの再整備について

【 現 状 】

日本丸メモリアルパーク（約 5.5ha）は、みなとみらい 21 中央地区・新港地区・
 自動車道で囲まれた静穏な水域に面する「水と緑のネットワーク」の一部を構成する
 港湾緑地です。

国の重要文化財の旧横浜造船所 1 号ドックに帆船日本丸を係留するという独自の
 文化的取り組みや、横浜マリタイムミュージアムなど特徴ある施設、さらには内水
 域周辺の優れた景観が評価され、来街者の憩いの場や観光拠点として親しまれてい
 ます。

1 期地区（約 4.0ha）	昭和 6 0 年から一般公開
2 期地区（約 1.5ha）	現在、遊具施設等による暫定的な土地利用

【 主な課題 】

1 期地区	① パーク全体としての統一感に欠ける環境 ② 最新の情報を反映しきれていない展示内容 ③ 施設全体の老朽化
2 期地区	① 水際線プロムナードの連続性の欠如 ② 就業者や来街者の増加によるパーク周囲歩道の著しい混雑 ③ 木陰の不足

【 フィールドミュージアム計画 】

こうした課題等へ対応するため、平成 21 年の横浜開港 150 周年や 2 期地区の
 暫定土地利用契約期間の満了（平成 2 1 年 3 月末日）を契機として、パーク全体の
 活性化を図ります。

具体的には、パーク全体を横浜港をテーマとした「フィールドミュージアム」と
 位置づけ、1 期地区では帆船日本丸や横浜マリタイムミュージアム等のリニューア
 ルを行うとともに、現在未整備の 2 期地区を、快適な緑地空間として本格整備し、
 パーク全体を一体の親水空間とすることで、みなとヨコハマにふさわしい魅力づく
 りを進めます。

I 1期地区の横浜マリタイムミュージアム及び帆船日本丸等リニューアル基本計画

1 施設計画（対象：日本丸メモリアルパーク導入部及びアリーナ、横浜マリタイムミュージアム等）

主に次の取組みに基づき、整備します。

アプローチ空間の刷新	パークやミュージアム、帆船日本丸への誘導を促す、視認性の高いオブジェや施設全体の案内サイン等の設置
ミュージアム等の入口の顕在化	ミュージアムや帆船日本丸の入口を案内サインや構造物等により明確化
ミュージアムに交流空間を創出	カフェやミュージアムショップ、ビジターセンター機能の付加

2 展示計画（対象：横浜マリタイムミュージアム、帆船日本丸、屋外展示）

主に次の特性を重視し、整備します。

参加性・・・見るだけではなく体験を通して、楽しく学ぶことのできる展示
 可変性・・・固定的な展示ではなく資料の展示替え、情報更新が容易なシステム
 同時性・・・リアルタイムで横浜港の情報や映像が提供できるシステム

3 デザイン・サイン計画

施設名やイメージカラー、ロゴタイプ、シンボルマークなどを新たに検討します。

II 2期地区の緑地計画

1 整備の基本的な考え方

- ① 帆船日本丸やミュージアムを中心とした1期地区との一体性や連続性が確保できる緑地
- ② 静穏な内水域に囲まれた「みなとヨコハマ」を代表する景観にふさわしい緑地
- ③ 歩行者空間の整備など地域的な課題に対応する緑地

2 導入機能の方向

- ① 1期地区との連続性、回遊性や周辺歩道の混雑解消に配慮した快適な水際線プロムナードや園路
- ② 内水域への眺望を活かしたオープンスペース
- ③ 景観と調和した植樹
- ④ オープンカフェや花壇など、にぎわいを演出する新たな魅力

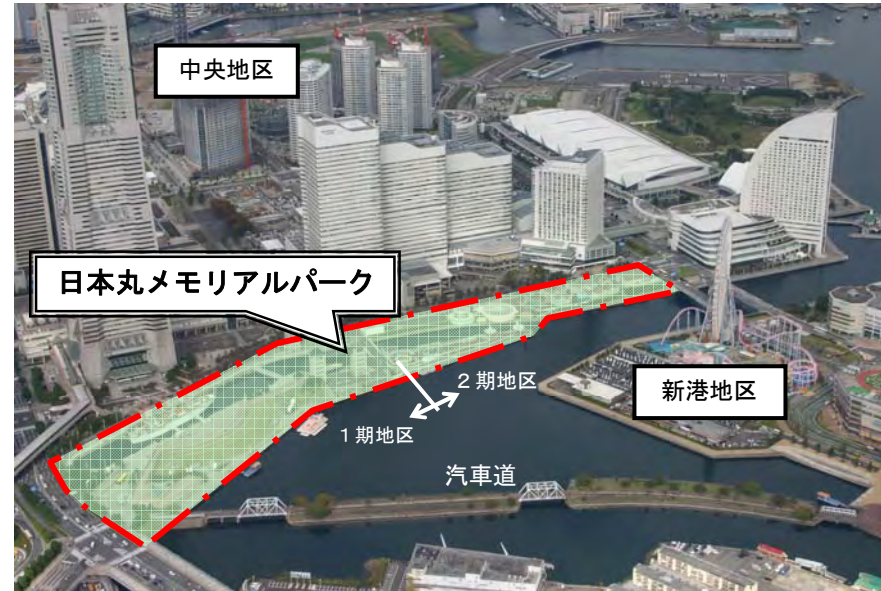
3 市民意見募集

平成19年度は、計画素案を基にホームページ等を活用したアンケートを実施し（11月頃を予定）、市民や地元の意見、要望、提案等を把握しながら、基本計画を策定します。

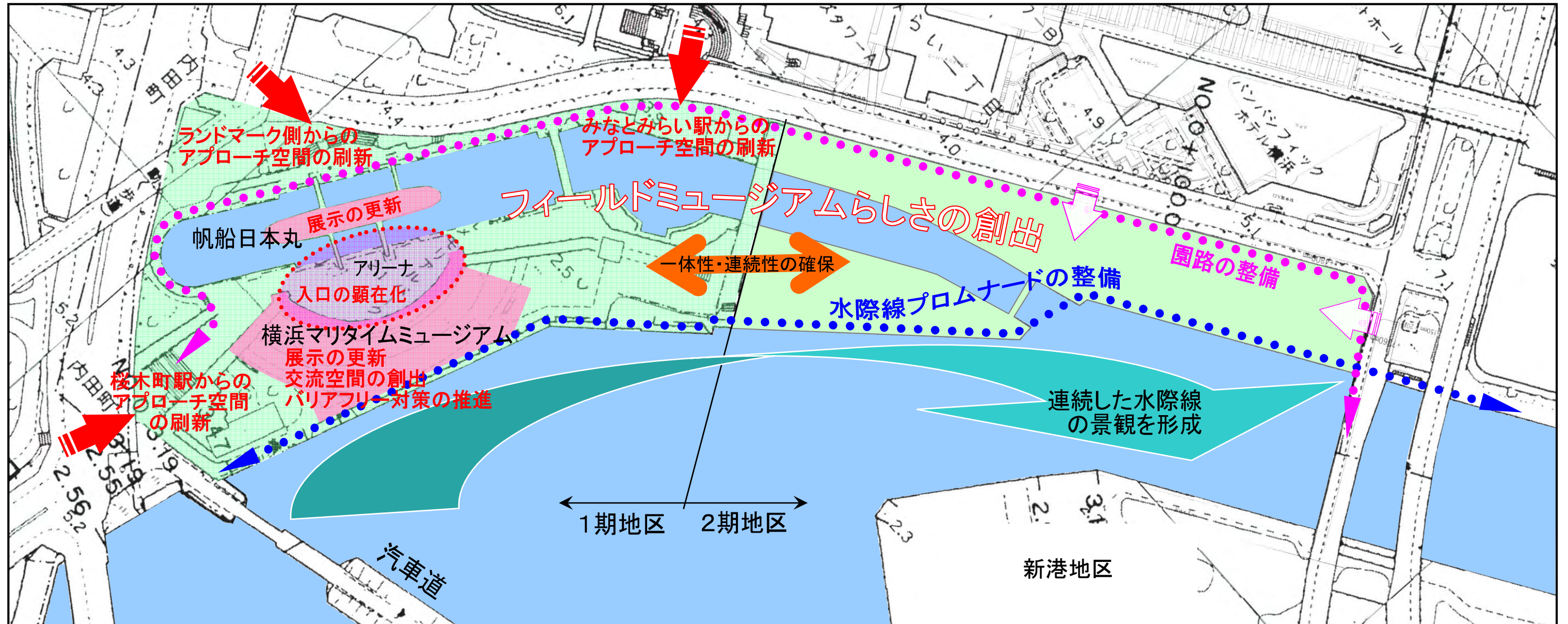
III スケジュール

開港150周年

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1期地区	基本構想 基本計画	設 計	整備工事	リニューアル オープン	
2期地区	基礎調査	基本計画・市民意見募集	設 計	整備工事	整備工事



日本丸メモリアルパークの位置



「フィールドミュージアム計画」全体イメージ

横浜マリタイムミュージアム及び帆船日本丸等
リニューアル基本計画(案)

「みなと横浜フィールドミュージアム基本計画」

2007年3月

横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会

目次

はじめに	1
基本構想 骨子	
基本構想 リニューアルの全体像	
本基本計画書の構成	
1章 施設計画	5
2章 展示計画	16
3章 ICT計画	25
4章 VIおよびサイン計画	28
5章 事業計画	32
6章 組織計画	36
7章 スケジュール計画	38
参考資料	40

はじめに

昨年11月、当委員会は「横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想」において、日本丸メモリアルパーク全体(以下、「パーク」と言う)を、横浜港や船、海を知るためのフィールドミュージアムとして位置づけ、リニューアルの対象とすることを提言した。

今回、この基本計画は、その基本的な方針を受け、計画のフレームワークを示した上で、パーク内に配置された横浜マリタイムミュージアムや帆船日本丸等について「施設」、「展示」、「ICT」、「VIおよびサイン」、「事業」、「組織」の観点から、リニューアル計画として取りまとめたものである。

なお、この基本計画の名称については、基本構想に引き続き、「横浜マリタイムミュージアム展示更新計画」とすべきであるが、実際の計画内容がミュージアムや帆船日本丸を含むパーク全体のリニューアルを行うことを提案していることから、計画の内容をよりわかりやすく伝えるために、名称を変更することとした。

次年度以降の横浜マリタイムミュージアム展示更新等の設計、施工、運営の指針となるよう積極的に活用されることを期待する。

平成19(2007)年3月

横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会

委員長 中村ひろ子

基本構想 骨子

海と港と船の博物館「横浜マリタイムミュージアム」については、利用者の要望を踏まえ、時代に即した展示内容にするとともに、多くの人たちに親しまれる魅力的な施設となるように開港150周年を迎える平成21年にリニューアルオープンすることとした

そこで、横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会を設置し、平成18年11月にリニューアルに関する基本的な考え方をまとめた「横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想」を策定した

この「基本構想」の骨子については、次のとおりであり、この考え方にに基づき基本計画の検討を進めている

■パーク全体の基本理念

日本丸メモリアルパーク（Ⅰ期地区*1）は、本物のみならず横浜を身近に体感できるフィールドミュージアム*2です
ここには、博物館をはじめ、本物の帆船日本丸・1号ドック、そして横浜港があります！

■パーク全体のリニューアル方針

日本丸メモリアルパークは、「横浜港をテーマとしたフィールドミュージアム」として生まれ変わります

■リニューアル戦略

戦略1-コミュニケーション力の強化

認知度・利用度・満足度をアップさせるために、利用者・市民との接点（交流領域）を刷新する

戦略2-ミュージアム機能の基盤強化

持続可能な運営のためにミュージアムとして必要な設備と組織力・機動力をアップさせるためのしくみを整備する

*1: 日本丸メモリアルパークⅠ期地区、Ⅱ期地区の範囲については、6頁参照

*2: フィールドミュージアムとは、現存する文化財等の資料だけでなく、現地（フィールド）の環境も含めて、保存・活用の対象とした野外博物館のことを指す

基本構想 リニューアルの全体像

戦略1

コミュニケーション力の強化

認知度・利用度・満足度をアップさせるために、利用者・市民との接点（交流領域）を刷新する

交流領域とは、市民や利用者との接点となる施設・設備、サービス、事業を指し、様々な交流やコミュニケーションのインターフェイスとなるもの

また、利用者が本パークを円滑に活用できるよう工夫した仕掛け等も指す

(1)ミュージアム・帆船日本丸の常設展示のリニューアル計画

横浜港の歴史と刻々と変化する「横浜港の今」を楽しく学ぶことができる展示とする。ミュージアムだけでなく、帆船日本丸の常設展示もわかりやすいものに刷新する

(2)ミュージアム1階交流空間のリニューアル計画

開放的でフレンドリーな交流空間に刷新し、ホスピタリティとにぎわいを高める

(3)屋外環境のリニューアル計画

(A)パークのアプローチ空間の刷新

新規利用者を開拓するためには、まず、本パークの顔をフレンドリーでわかりやすいものに刷新する必要がある
行ってみたいと思える導入空間を演出することは常設展示の更新だけでなく、認知度・利用度を高めるためには優先度の高い方策である

(B)フィールドミュージアムらしさの創出

パーク内に点在する港湾関係の実物資料を屋外展示物として来園者が観覧できるように配置し直す
その価値を伝えるためのわかりやすい解説パネルも設置する

(C)ミュージアム等の入口を顕在化

ミュージアムの場所とその入口がわかりづらい問題を解決するために、ミュージアムの存在をアピールする入口の演出、屋上緑化の下にミュージアムがあることが認識できるようにする。また、日本丸のPRボードを設置し、日本丸の存在も顕在化させる

(4)VI（ビジュアル・アイデンティティ）*3・デザイン戦略のリニューアル計画

今回のリニューアルを契機に、VI（ビジュアル・アイデンティティ）計画を刷新し、統一感のあるデザイン戦略を展開し、認知度・利用度・満足度アップをめざし、施設全体の訴求力を高める

戦略2

ミュージアム機能の基盤強化

持続可能な運営のためにミュージアムとして必要な設備と組織力・機動力をアップさせるためのしぐみを整備する

(1)資料保存環境の再整備

貴重な資料の保存・展示環境を良好に保持できる設備に改める

(2)資料・図書のデータベースを含む情報システム（ICT*4）の整備

研究・展示等多様な事業や活動で利用できる情報コンテンツとシステムを整備する
また蓄積された情報は、市民も活用できるよう、施設内だけでなく外部からでも利用できるシステムとする
普段の情報更新作業については職員の端末等で行えるシステムとする

(3)運営体制・実施体制の見直し

縦割りの組織に対して、事業別の横断的なチームを設け、マトリックス組織の構造体で統一感のある組織運営を図る
また、変わらないメッセージを発信していけるよう、本パーク全体の総括長を配置することも検討する
地域連携・市民との協働体制でリニューアルの準備・整備を行い、リニューアル後の活動支援体制も徐々にしぐみとして整備を図る

*3: VIとは、視覚的統一による共通理解を深めるために導入されるCI（コーポレート・アイデンティティ）のための方策

ミュージアムの特性を外に向けて広く、そして正しく周知し、利用者や市民の心の中にあるミュージアムイメージを高め、社会とのつながりに好ましい関係をつくりだすことが目的

*4: ICTとは、Information and Communication Technologyの略で情報通信技術を表す言葉

情報通信におけるコミュニケーションの重要性が増大しているため、国際的にはIT（Information Technology）ではなく、Communication（コミュニケーション）を加えたICTの方が定着している

本基本計画書の構成

本書は、今後の設計・制作の業務内容および実施体制を考え、下記の項目で整理し、以下計画内容を取りまとめたものである

基本構想 リニューアル戦略		基本計画の項目					
		1 施設 屋外環境 ミュージアム	2 展示	3 ICT	4 VI および サイン	5 事業	6 組織
戦略1 コミュニケーション力の強化	(1)ミュージアム・帆船日本丸の常設展示のリニューアル計画	○	●	○	○	○	○
	(2)ミュージアム1階交流空間のリニューアル計画(カフェ等の設置、バリアフリー化等)	●	○	○	○	○	○
	(3)屋外環境のリニューアル計画 (A)パークのアプローチ空間の刷新 (B)フィールドミュージアムらしさの創出 (C)ミュージアム等の入口を顕在化	●	○	○	○	○	○
	(4)VI(ビジュアル・アイデンティティ)・デザイン戦略のリニューアル計画(サイン計画、ロゴマーク、ネーミング等)	○	○	○	●	○	○
戦略2 ミュージアム機能の基盤強化	(1)資料保存環境の再整備	●					
	(2)資料・図書のデータベースを含む情報システムの整備		○	●	○	○	○
	(3)運営体制・実施体制の見直し		○	○	○	○	●

凡例 ●重点項目 ○関連項目

1章 施設計画

施設名の呼称について

以下、下記のように略す

■日本丸メモリアルパーク → パーク

■横浜マリタイムミュージアム → ミュージアム

1. パーク全体の施設構成の基本的な考え方

■全体方針

パーク全体をひとつのフィールドミュージアム(野外博物館)と位置づけ、事業を展開し(詳細は32~35頁の事業計画参照)、パーク内の既存施設等の資源を有効活用しながら、一体的な運営を行う

本パークは、横浜開港150周年記念事業の拠点施設のひとつとして機能させる

■各施設の機能と位置づけ 各施設は単体ではなく、パーク全体の一要素として相互に連携させながら事業展開を行う

①横浜マリタイムミュージアム

横浜港を知り考え、楽しむことができる「市民のための博物館」
カフェでくつろぎ、ショップで買い物、ライブラリーで学習
横浜港のビジターセンター

②帆船日本丸

日本丸メモリアルパーク全体のシンボルで、
船を楽しみ・学べる最大の本物展示物
(船内で船や船員養成を理解するための展示や解説を行う)

③横浜船渠1号ドック

ドックの役割(修船・造船等)を学ぶ「本物」展示物で国の重要文化財
日本丸の係留場所
(重要文化財を展示、ミュージアムと連携)

④アリーナおよび導入部

パークへ誘うための期待感をもたせるためのアプローチ空間
市民の憩いと交流の場
ミュージアムと帆船日本丸・ドックとの結節点
(イベント会場、屋外展示場所、カフェテラスとして使用、収益施設)

⑤研修施設(訓練センター)

海と港と船の体験学習の拠点及び貸し会議室
(座学、海洋教室等の体験型学習、講演等を行う)

⑥4つのタワー棟

新たな交流の場及びミュージアムの補完施設
(海事関連団体並びに市民の交流の場として提供、講座や展示スペース、収蔵倉庫等にも利用)

⑦水域

市民の体験学習と憩いの場(本物の海で遊び学ぶ体験する、海洋レクリエーション、カッター訓練等の体験、収益施設)

⑧緑地

人々の憩いと交流の場(環境に配慮した屋上緑地)

⑨サービス施設

屋外利用者のための休憩用スペース、身障者用トイレ、授乳室等の設備を充実させる

⑩大型バスの車寄せ・駐車場

利用者の利便性とホスピタリティを高めるためには必要

図凡例 ... 日本丸メモリアルパーク I 期地区
... 同上 II 期地区



* 日本丸メモリアルパークについては、I 期地区とII 期地区に分けて整備事業を進めている

2. 屋外環境 (1)リニューアル方針

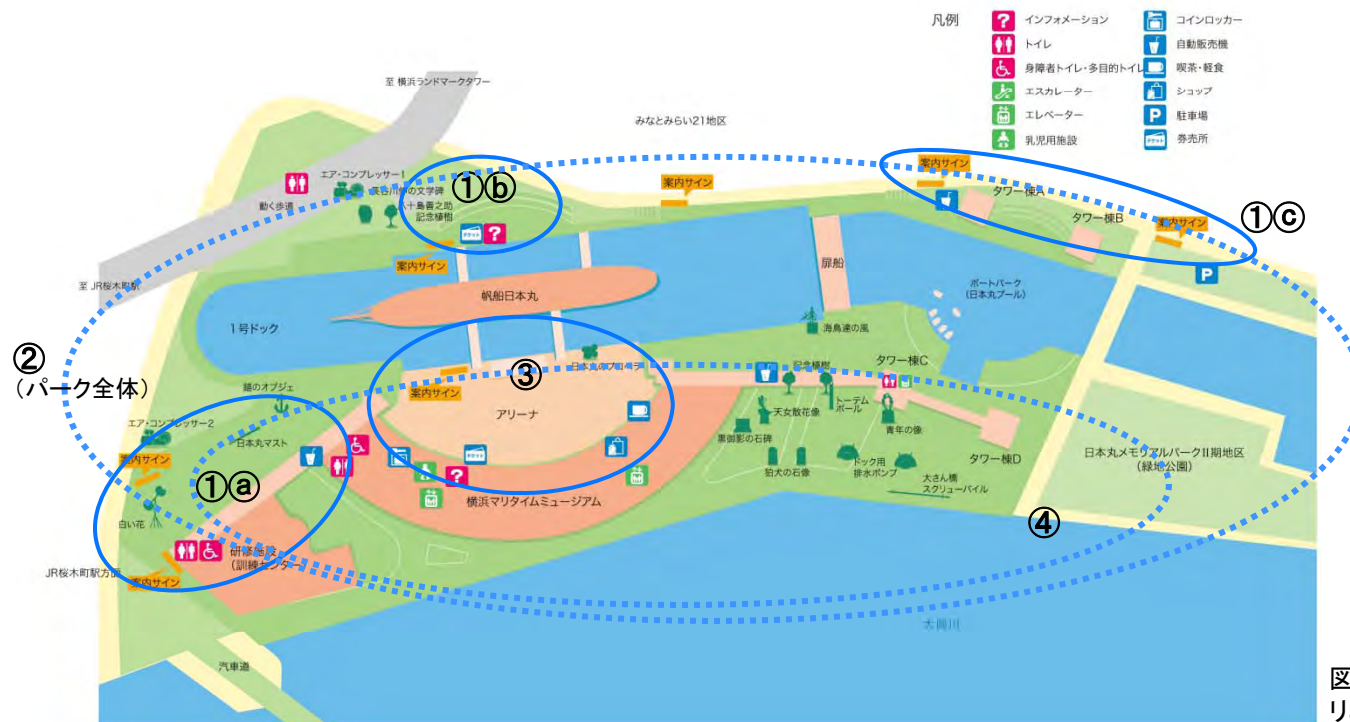
■屋外環境の領域

屋外環境とは、まず、パーク内施設のうち、アリーナおよび導入部、緑地、水域を指す(6頁の施設構成のうち④⑦⑧に該当)
 その他、パーク内に点在する屋外展示物(詳細は23~24頁参照)、案内サイン、外構(植栽、屋外建造物)を指す

■リニューアルの全体計画

パーク全体をひとつのフィールドミュージアムとするために、屋外環境を下記のリニューアル策によって整備する
 各リニューアル策の該当エリアおよび展示物やサイン、サービス設備等の配置計画に関しては、図1参照

- ①アプローチ空間の刷新
 - ①a 桜木町駅からのアプローチ
 - ①b ランドマーク側からのアプローチ
 - ①c みなとみらい駅からのアプローチ
- ②フィールドミュージアムらしさの創出(パーク全体)
- ③ミュージアム等の入口を顕在化
- ④その他(アリーナ周辺の環境整備、横浜港の見えるビューポイントを整備等)



2. 屋外環境 (2)リニューアルの具体的な展開

①パークのアプローチ空間の刷新

㊸桜木町駅からのアプローチ

パーク内に誘導するため、ミュージアム入口までの動線上に視認性の高いシンボルオブジェを設置する
例：彫刻「白い風」(新宮晋作)、錨のオブジェ(ハンブルク港から寄贈)を移動

施設全体の案内サイン(ウェルカムボード:詳細はサイン計画30～31頁参照)を設置する

桜木町駅側入口(階段)から日本丸、ミュージアムへの誘導を促す環境をつくりだす

屋外設置物(旧横浜船渠株式会社エアー・コンプレッサー等)を展示物として環境を整備する

現在設置されている案内所ブースは撤去し、日本丸やパーク内を眺望できるよう改善する

桜木町駅からパークに誘導するために、ポスター掲出やサイン設置等について検討する

㊹ランドマーク側からのアプローチ

パーク全体で統一したデザインで環境を整備するために、現在設置されている券売所は撤去し、新設する

施設全体の案内サインを設置する

帆船日本丸が見やすいように植栽の剪定を行う

㊺みなとみらい駅からのアプローチ

施設全体の案内サインを設置する

みなとみらい駅からパークに誘導するために、ポスター掲出やサイン設置等について検討する

②フィールドミュージアムらしさの創出(パーク全体)

横浜港のフィールドミュージアムとしてふさわしい環境を整備する

パーク全体のテーマ「みなとに集い憩う」に基づき、環境を整備する

パーク全体のVI(詳細は29頁参照)に基づき、統一感のある環境に整備する

屋外展示物(詳細は23～24頁参照)等のパーク内の歴史・文化資源を有効活用して、フィールドミュージアムとして整備する

日本丸メモリアルパークⅡ期地区も、基本的に同じ方針で整備することが好ましい

③ミュージアム等の入口を顕在化

ミュージアムのメインの入口を明確にするために環境を整備する(サイン等の設置も含む)

現在日本丸側に設置されている券売所は撤去し、ミュージアムに隣接する場所に新設し、1階交流空間と連動させる

日本丸と1号ドックの価値を示すためのPRボード(解説板)を設置し、日本丸の入口を明確にする

④その他

■アリーナ周辺の環境整備

日本丸とミュージアムをつなぐ演出を行う

日本丸メモリアルパークⅡ期地区整備と連動し、緑のネットワークを形成できるよう、アリーナやミュージアムの外壁等の緑化を推進させる

■横浜港の見えるビューポイントを整備

新港地区や大さん橋方面が見える芝生広場からの景観を生かせるような環境を整備する

パークの利用者に港をより身近に感じてもらえるビューポイントを整備する(日本丸メモリアルパークⅡ期地区も、基本的に同じ方針で整備することが望ましい)

■大型バスの車寄せ・駐車場の設置

日本丸メモリアルパークⅡ期地区整備において、大型バスの乗降場所等を設置することが好ましい

2. 屋外環境 (3)リニューアルイメージ

①パーク全体のイメージスケッチ



②部分イメージ

①②桜木町駅からのアプローチ空間の刷新



②⑥ランドマーク側からのアプローチ空間の刷新



③ミュージアム等の入口を顕在化



3. ミュージアム (1)リニューアル方針

ミュージアムを「横浜港をテーマとしたフィールドミュージアム」の中核施設として機能させるために、下記のリニューアルを行う
各リニューアル策の該当エリアに関しては、図2参照

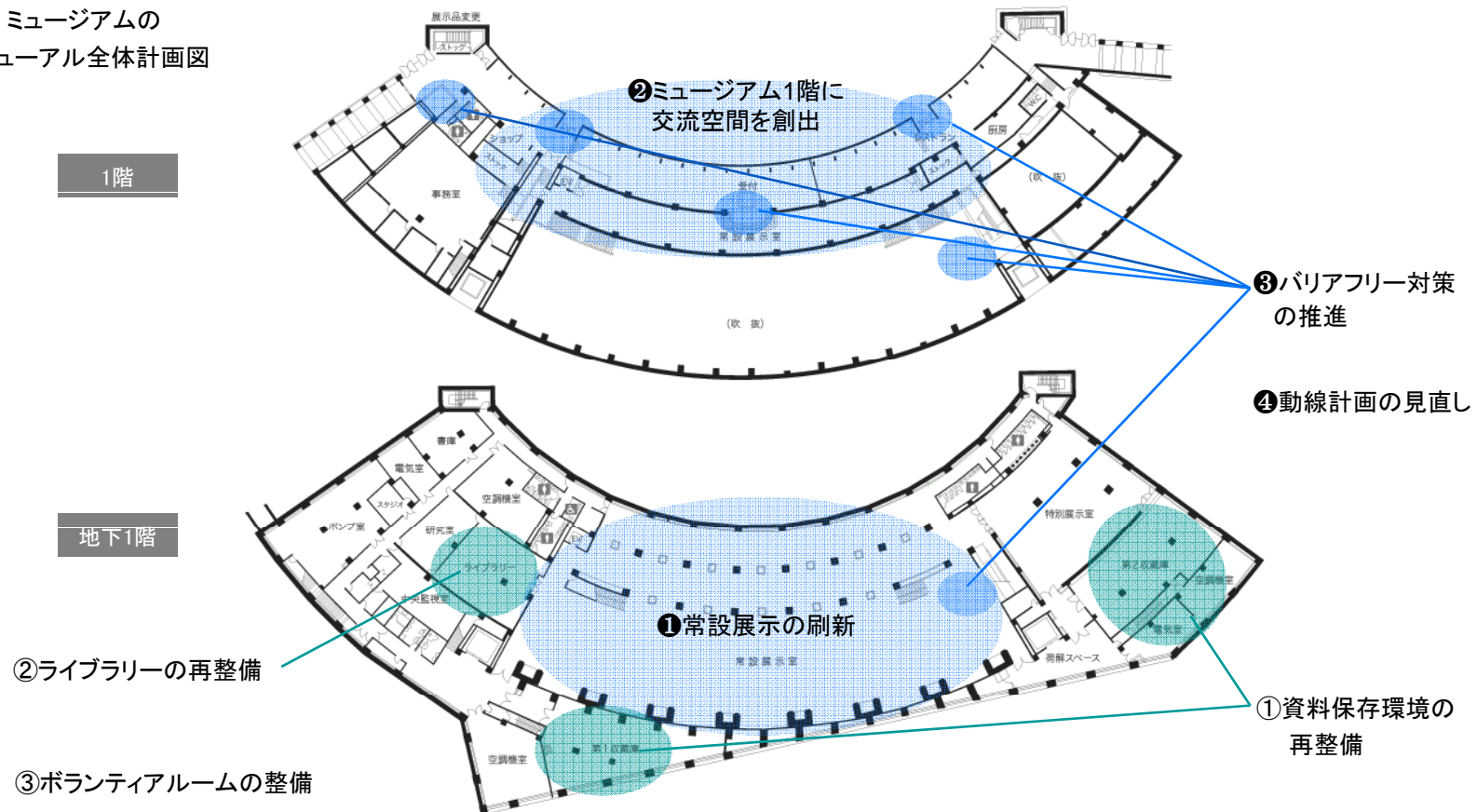
A. コミュニケーション力の強化

- ① 常設展示の刷新(詳細は18～20頁参照)
- ② ミュージアム1階に交流空間を創出
- ③ バリアフリー対策の推進
- ④ 動線計画の見直し

B. ミュージアム機能の基盤強化

- ① 資料保存環境の再整備
- ② ライブラリーの再整備
- ③ ボランティアルームの整備(設置場所は検討する)

図2 ミュージアムの
リニューアル全体計画図



3. ミュージアム (2)リニューアルの具体的な展開 A.コミュニケーション力の強化

認知度・利用度・満足度をアップさせるために、市民と利用者の接点(交流領域)を刷新し、コミュニケーション力の強化を図る
そのため、下記リニューアルの方策を実施する

①常設展示の刷新 詳細は、2章展示計画16～24頁参照

②ミュージアム1階に交流空間を創出

1階については、気軽に利用でき、いつもにぎわいを感じさせる楽しい雰囲気的空間に刷新する
なお、このエリアは基本的に無料空間とする

利用者に対するホスピタリティを高めるため、下記の設備やコーナーを整備する

設備・コーナー	リニューアルの概要
メインの入口	メインの入口を明確にし、その他のドアについては機能等を配慮した上で、壁か窓に変更することを検討する (屋外と屋内両面から整備)
券売所(兼案内所)	パーク全体のメインの券売所をミュージアムに隣接する場所に整備し、1階の交流空間と連動させる
カフェテリア	利用者から要望の多い気軽に利用できるカフェテリアを整備する アリーナ側に屋外席を設ける等、パーク全体の憩いの場として機能させ、夏期夜間も快適に過ごせるようにする
ミュージアムショップ	わくわくするミュージアムショップに刷新する 現時点の場所から移動し、開放的なショップに改善する 外から商品が見えるようにし、中に入ってみたくなるような環境にする
情報コーナー	海事関係の雑誌や図鑑等の閲覧、映像コンテンツや情報検索ができるコーナーを設ける 地下1階図書室でのサービスと差別化し、ライブラリーサービスの二元化を図る
横浜港コンシェルジュ サービスコーナー	横浜港のビジターセンター機能を強化するために新設する 横浜港に関する情報サービスを人的対応によって実施する また、パークの活動紹介や催し物案内、事業参加の受付業務等もこのコーナーで行う
オープンアトリエ	小規模なイベントやワークショップを実施できるスペースを設ける ファミリー層やこどものニーズに対応できる施設であることをアピールし、有料空間への動機付けの場と位置づける
自動販売機	パーク内の自動販売機の設置場所・台数・デザイン等の見直しを、カフェテリア新設と併せて検討する
その他	エントランスホール内にロッカー、傘立て、団体待ち合わせ空間等も整備する

③バリアフリー対策の推進

本リニューアルではパーク内の利用者の利便性を考慮し、ミュージアム1階に障害者用トイレ(多目的トイレ)、授乳室等を設置する
エレベーター、手すり、スロープ等については、必要に応じて設置を検討する

ミュージアムとレストランの入口を自動ドアに変更することを検討する(2箇所)

横浜市の指針に則り、整備を進めるが、建築ハード面での改築も必要であるため、補助金等を申請し、徐々に対応していく

準拠すべき基準 『横浜市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル』 企画編集:横浜市福祉局地域福祉部福祉のまちづくり課
発行:平成10年3月 改訂:平成17年3月

④動線計画の見直し

有料空間は、常設展示室、特別展示室、ライブラリーのみとし、それぞれ別々に利用することができるよう、券売・もぎりの配置場所ならびに動線を検討する

カフェテリアは、展示室やロビーから外に出ずとも利用できるような動線とする

3. ミュージアム (2)リニューアルの具体的な展開 B.ミュージアム機能の基盤強化

本パークをフィールドミュージアムとして機能させるため、ミュージアムに必要な基盤となる機能の再整備を行う

①資料保存環境の再整備

空調設備の改善を図り、収蔵庫等の環境(温湿度)を適切な条件で管理できるようにする

今後、資料の劣化・損傷だけでなく、資料の借用・寄贈・寄託にも支障を来す恐れがあるため、今回のリニューアル時に改善を図る

②ライブラリーの再整備

図書・雑誌・映像閲覧、コピーやレファレンス(問い合わせ・相談)のサービスの他、今後はデジタルコンテンツ情報の検索、研究者に対する資料や閉架図書の特別閲覧サービスも行える場所を確保する

これらのサービスをライブラリー内で実施できるよう、什器・備品・機器等の整備を図る

③ボランティアルームの整備

市民との協働体制を強化するため、日本丸パークの施設内(ミュージアム、研修施設、タワー棟等)にボランティアルームを整備することを検討する

2章 展示計画

1. 常設展示全体のリニューアル方針

①常設展示の領域

本リニューアルでは、ミュージアム、帆船日本丸だけでなく、屋外も常設展示のフィールドとして位置づけ、整備を行う

②常設展示の整備方針

横浜港の歴史と刻々と変化する「横浜港の今」を楽しく学ぶことができ、わかりやすい常設展示に刷新する

常に変化に対応できる展示に刷新する

常に新しい発見を来館者に提供し、来館者の満足度・再来性を高める

下記5つの特性を重視する

参加性

見るだけでなく体験を通して楽しむ学ぶことができる展示とする
展示だけでなく、気軽に参加できるアクティビティも開発する

可変性

展示台、展示壁等の展示造作は固定的にせず、可変性に富むシステムとする
資料の展示替え、情報の更新が容易な展示システムとする

同時性

現在の横浜港の映像や情報、航海中の船からの映像や情報をライブで提供する
「今」に重きを置き、過去を紹介し、未来を展望できる展示とする

関連性

パーク内の実物資料や横浜港に点在する地域資源同士の関連性や、フィールドと展示物との関連性を常に意識できる展示とする
横浜港と暮らしとのかかわりを紹介する

国際性

多言語化、ユニバーサルデザイン化、バリアフリー化を徐々に整備できる展示や設備とする

準拠すべき基準

『横浜市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル』横浜市福祉局地域福祉部福祉のまちづくり課企画編集

平成10年3月発行 平成17年3月改訂

『横浜市外国語広報のあり方に関する指針』横浜市福市民活推進局 平成17年4月1日

2. ミュージアムの常設展示 (1)リニューアル方針

常設展示全体の整備方針を受け、ミュージアムで以下に留意し、具現化を図るものとする

①重視すべき表現方法

■参加性

触れることのできる展示を重視する

利用者が楽しみながら体験し、学習することのできる工夫ある展示とする

■可変性

展示台、展示壁等の展示造作は固定的にしない

資料の展示替え、情報の更新が容易なシステムとする

■同時性

今も刻々と変化している横浜港を、誰もが知り考え、楽しむことができる展示とする

リアルタイムで情報の更新が容易なシステムにする

■関連性

フィールドミュージアムとして、パーク内の本物(帆船日本丸・1号ドック等)だけでなく、横浜港全域に点在する歴史・文化資源の情報も紹介する

展示物同士の関連性も紹介する

個別での情報の提示ではなく、日常生活や他の事象等との関連性を示す

例えば、氷川丸にチャップリンが乗船→日本郵船の営業戦略・えびのてんぷらを毎日提供することを約束→えびの保存・輸送方法→今の輸入状況→家庭の食卓のエビフライ 等

■国際性

多言語化、ユニバーサルデザイン化、バリアフリー化に適宜対応できる展示設備とする

- 横浜市の指針に則り、日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語の6カ国語対応を将来の目標に置き、整備を徐々に行う

■わかりやすさ

展示解説を改善する(音声ガイドの実施、文字サイズの改善、点字対応、映像や情報コンテンツにおける表現方法の工夫等)

文字だけでなく、豊富な資料、図・絵・写真等でみせる

何かを比較したり、ものの機能や構造を説明する時には、量感や大きさ・動きを分かりやすく表現する

■既存資料の有効活用

既存展示物の一部については、そのまま利用するものとする
所蔵品を生かす

②計画策定時の留意点

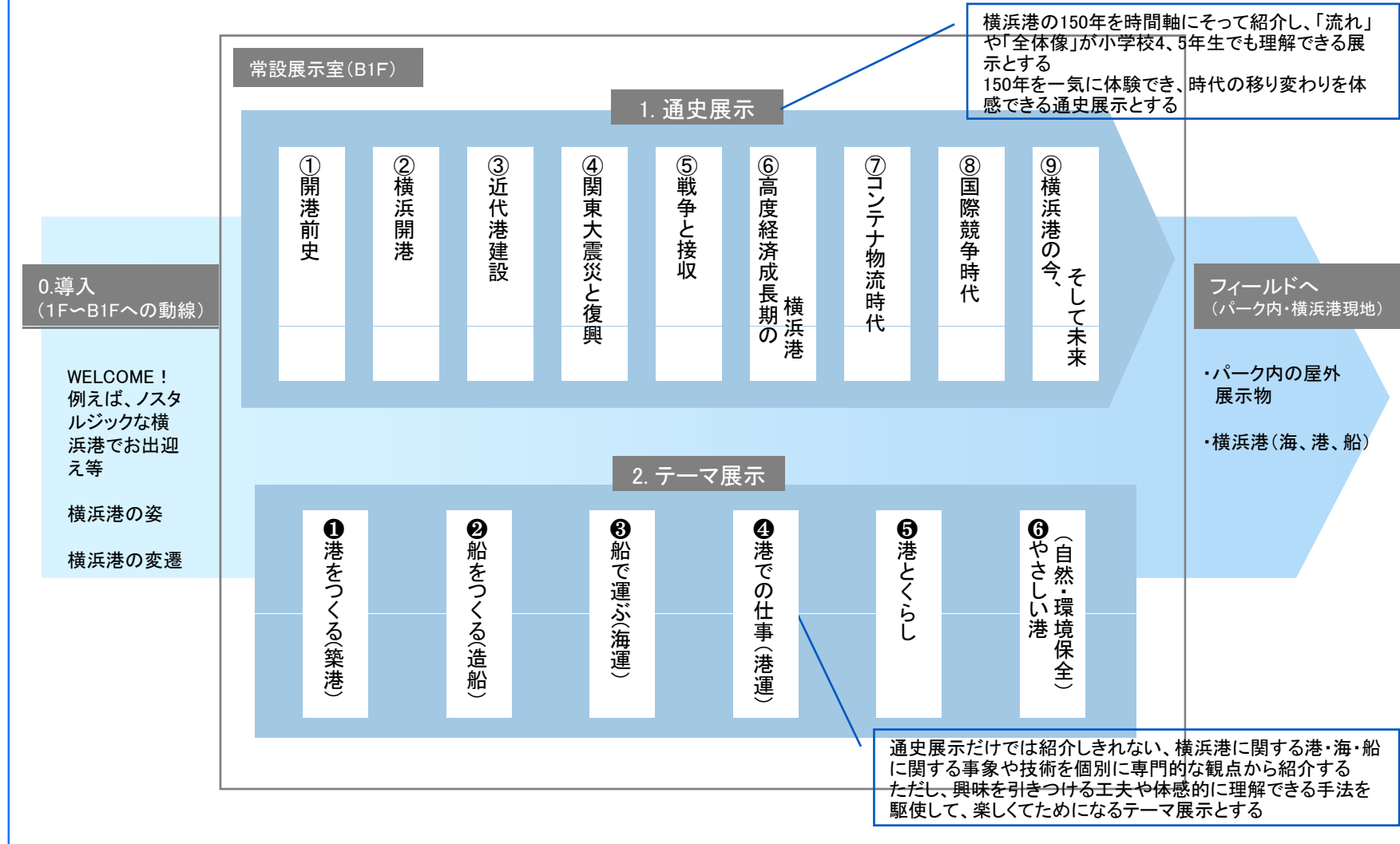
- 難しいことを易しく、易しいことを深く、表現する
- 新しい視点、知見をたくさん取り入れる
- 多くの人たちが理解できるよう、また小学4年生でもわかるよう工夫する
現行の学習指導要領では、4年生で昔のくらしやまちづくり、5年生で貿易、6年生で日本史(開港)を学ぶことが規定されている
今回のリニューアルによって、学習内容を踏まえた展示にすることによって、学校利用の増加を見込める可能性が高い
- 各展示で、市民生活とのつながりを示す
- 横浜港のフィールドミュージアムとして、展示テーマの明確化や参加型展示の積極的な導入等により、周辺施設とのすみ分けを図る
- これまで収集してきた実物資料を生かし、「もの」の持つ訴求力によって充足感を提供できる展示とする
- 情報は常に更新し、新しい発見に満ちたミュージアム像をめざす
- 横浜港等に関する一般論から、さらに一歩踏み込んだ知識や要素も取り入れ、リピーターや専門家も楽しめる展示とする
- 内陸(市街地)から見た港だけでなく、海から見た横浜港、あるいは港から見た海外の動きや市民生活等、様々な観点から幅広く横浜港を紹介する
- 「トリビア」*4やエンタテインメント性を持たせた、楽しめる展示を取り入れる
例えば、はじめてシリーズ、横浜できごと地図／横浜発祥地マップ、つながりゲーム(氷川丸・帆船日本丸・山下公園は昭和5年生まれ
つながり、パーマーや大さん橋のスクリューパイルはイギリスつながり等を紹介)、船のふしぎQ&A 等

*4トリビア trivia とは、ささいな[つまらない、くだらない]こと[もの]、平凡なこと[もの]、重要ではないが面白いこと、雑学的な事柄、雑情報、(クイズ等で問われる)雑学的な知識、雑学クイズゲーム。フジテレビ系列の「トリビアの泉」という番組が流行し、日本では「雑学的な事柄や知識」という意味で用いられている。

2. ミュージアムの常設展示 (2)リニューアルの具体的な展開 展示構成案

パーク全体の展示テーマ「海と港と船」で楽しみ憩い、「海と港と船」を学ぶことができる横浜港をテーマとしたフィールドミュージアム

ミュージアムのメインテーマ「みんなの横浜港—歴史と暮らしのなかの横浜港—」



3. 帆船日本丸の常設展示 (1)リニューアル方針

①保存・整備した成果を「公開」という形で、市民に還元する

- 船体は保存対象であり、現状維持した上でのリニューアルを行うものとする
- 随時、公開エリアを拡張していく
- 展示できるスペースが限られているので、工夫してスペースを有効に使う
- 普段非公開のエンジンルーム等は、一般利用者も閲覧できるよう、ガイドツアー等の特別閲覧プログラムを設ける

②練習船時代の雰囲気や生活感を感じることで展示とする

- 帆船日本丸が現役だった時代の練習内容やそのときの状況等を紹介する
- 衣食住の切り口からわかりやすく表現する

例えば、士官サロンや食堂にメニューを再現して展示する、生活水を切り口に練習生等の生活を紹介します 等

③解説をわかりやすい表現や手法に改善する

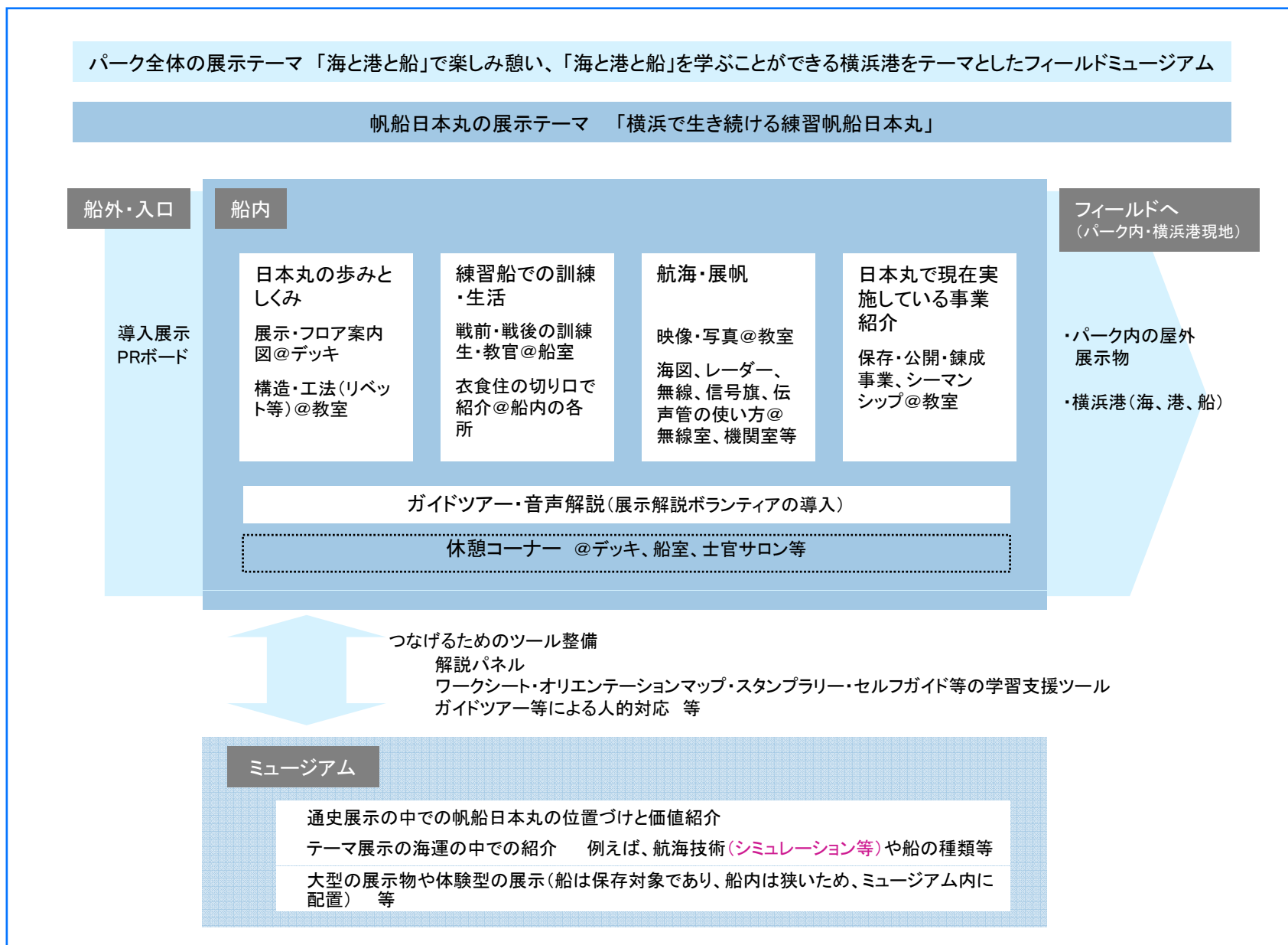
- パネルは、VIサイン計画に基づき、パーク全体で統一したデザインで更新する
- 練習船での生活状況や航海技術等を伝える情報は、船内の要所要所で音声解説で行う
例えば、ドラマ仕立ての解説 等
- 映像を使う場合には、省スペース化が図れる液晶モニター等の利用を検討する
- コンテンツの入れ替えが容易な仕様とする
- ボランティアや日本丸乗船経験者等によるガイドツアー等、人的対応で利用者の満足度をアップさせる
- 船内に入る前に、日本丸のPRボードを設ける

④活用できる資産・資源は有効利用する

例えば ・伝声管 実際に使えるようにし、工夫された船内の設備についての知識を深める契機にする

- ・汽笛 汽笛を録音し、環境演出として活用する(定時、年末年始等の年中行事の際等)
- ・海図 引きだし内の海図を閲覧できるようにする
- ・焼き印 ミュージアムグッズ作成の際に活用する
- ・教室 教育普及活動等の会場として活用する
- ・士官サロン 船員生活を体験できるようにする 等

3. 帆船日本丸の常設展示 (2)リニューアルの具体的な展開 展示構成案



4. 屋外の常設展示 (1)リニューアル方針

①屋外展示の領域

現在パーク内に設置されている右記の歴史・文化資源ならびに景観、自然環境も、横浜港を知るための素材として明確に位置づける

②屋外展示の整備方針

パーク内最大の屋外展示物である帆船日本丸は、パークのシンボルとして、さらに価値を高めるための展示活動を行う

パーク内に誘導するため、視認性の高い展示物をミュージアムの入口までの動線上に設置する

例：彫刻「白い風」(新宮晋作)、錨のオブジェ(ハンブルク港から寄贈)を移動

屋外展示物については、配置場所を再検討し、VIならびにサイン計画に基づき、解説板の内容やデザインを刷新する

植栽等で見えない展示物は、周辺環境との調和を考えながら、剪定などを行い、認知度・利用度を高めるための改善を行う

例：エアコンプレッサー等

- 現存する展示物だけでなく、「横浜港をテーマにしたフィールドミュージアム」としてふさわしいと思われるもの(実物資料やオブジェ等)については、今後も収集活動(寄贈・寄託・購入・採集等)を行い、更なる整備を図る

③パーク内の屋外展示物

1号ドック(下図)

ドック用排水ポンプ

旧横浜船渠株式会社

エア・コンプレッサー →

大さん橋スクリーパイル

日本丸マスト

日本丸プロペラ →

長谷川伸文学碑

彫刻「青少年の像」(垣内治雄作)

彫刻「白い花」(新宮晋作) →

彫刻「海鳥たちの風」(峯田義郎作)

姉妹港からの寄贈品

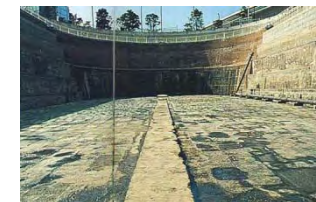
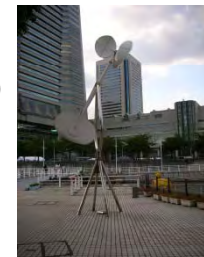
トーテムポール(バンクーバー)

狛犬の石像(上海)

天女散花像(大連港)

記念樹(オークランド港)

錨のオブジェ(ハンブルク港) →
等



4. 屋外の常設展示 (2)リニューアルの具体的な展開 屋外展示物の配置案

■色で示してあるものが屋外展示物

パーク全体の認知度アップ、パーク内への誘導、展示物の価値の顕在化を目的に配置案を検討する

下図は配置案の一例



3章 ICT計画

ICTとは、Information and Communication Technologyの略で情報通信技術を表す言葉
情報通信におけるコミュニケーションの重要性が増大しているため、国際的にはIT (Information Technology)ではなく、「Communication (コミュニケーション)」を加えたICTの方が定着している

1. ICTのリニューアル方針

① ICTの領域

今回のリニューアルでは、下記領域の整備を行い、常に新たな情報を提供できるフィールドミュージアムをめざす

今回のリニューアルで提供される情報サービスおよびシステムの基本的な考え方については、次頁「ICTの全体構成」の図参照

■施設内

蔵書、資料、映像やWEBのコンテンツの情報管理と活用

展示装置・展示ガイドシステム、レファレンスサービスに関する情報管理と活用

WEBを利用した各種の情報サービス

一般業務用の支援

■施設外（パーク以外の場所）

WEBを利用した各種の情報サービス

リアルタイムの情報の取得と蓄積できるWEBカメラの設置・管理

②期待できる成果

ICT導入によって、下記のしくみと体制が整備でき、ミュージアムとしての価値を高めることができる

ミュージアムの根幹であるコンテンツの蓄積と活用が可能になる
整備した情報を一般にも公開し、情報を公共財として市民も活用できるしくみと体制を構築できる

展示や情報の更新がしやすいしくみや体制が導入できる

多言語対応*5や、音声・映像・文字情報等多様な表現方法を同時に多くの人に発信できる（＝バリアフリー、ユニバーサルデザインの整備も推進できる）

③ ICTの整備方針

■取り扱いやメンテナンスが簡便で、安全性も確保すること

リニューアル後、管理運営体制の人員配置で、日常的に使いこなせるシステムを整備する

館職員が使い慣れた手元のパソコンから直接アクセスし管理・更新作業が可能なシステムとする

外部委託先からでもネットワーク経由でアクセスし、情報更新が可能なシステムとする

情報コンテンツはネットワーク上のサーバーに一括して收容し、そこから用途に応じて配信するシステムとする

更新結果がすぐに公開内容に反映されるシステムとする

■拡張性と相互運用性を確保すること

将来のシステム見直し時にも問題なく、データや機能が継承できるソフト・ハードにする（拡張性の確保）

世界標準を見据えた汎用性のあるデータ形式やシステムを採用し、外部との情報のやりとりにおいても支障なくデータが利用できるものにする（相互運用性／Interoperabilityの担保）

■コストパフォーマンスが高いこと

高額を投資したオリジナルのものではなく、普及し標準化している量産機種（ハード）や情報システム、ソフト（アプリケーション）を選択し、初期投資費用を抑える

特殊な技術や装置を避けることで、メンテナンス費用等のランニングコストも抑える

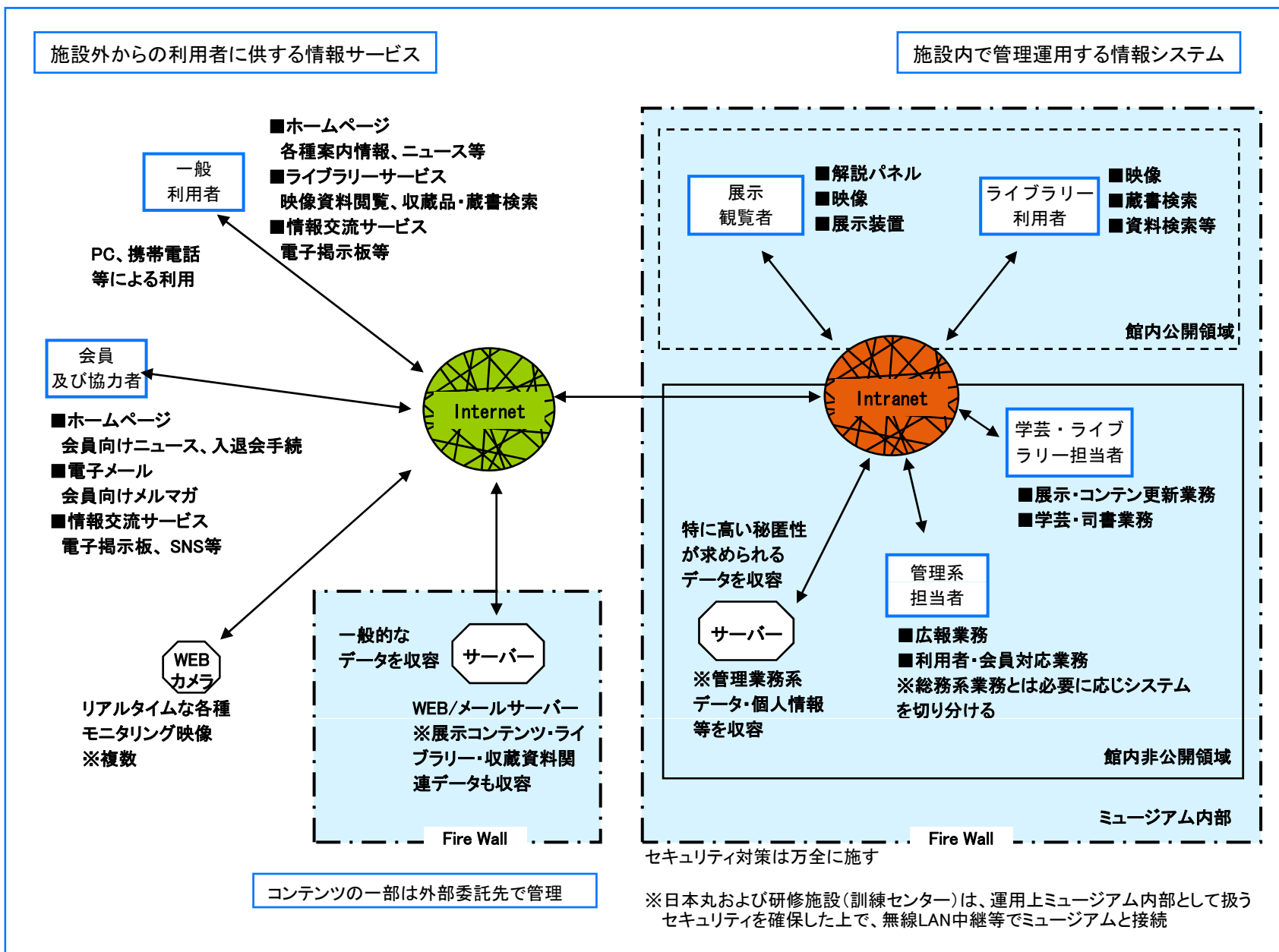
■運用や機器更新費用を長期的な視野に立って確保すること

データ管理、情報やデザインの更新等の費用を確保する

消耗品である情報機器類は、3～5年ごとに継続的に更新できるように、予算を確保する

* 5: 多言語対応 横浜市の指針に則り、日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語の6カ国語対応を将来の目標に置き、整備を徐々に行う

2. リニューアルの具体的な展開 ICTの全体構成案



4章 VIおよびサイン計画

VI(Visual Identity)は、視覚的統一による共通理解を深めるために導入される方策
ミュージアムの特性を外部に向けて広く、そして正しく周知し、利用者や市民の心の中にあるミュージアムイメージを高め、社会とのつながりに好ましい関係をつくりだすことが目的

1. VI 計画 (1)リニューアル方針

①VIの領域

本リニューアルでは、下記について整備する

■4つの基本要素

施設名・ネーミング
イメージカラー
ロゴタイプ
シンボルマーク

特にネーミング(愛称含む)に関しては、施設の趣旨や扱っているテーマがすぐにイメージできるよう配慮する

■VIの基本計画作成

上記基本要素に関する基本的な活用方針をまとめる

■アプリケーションの展開

ポスター、パンフレット、封筒・便せん・名刺等の事務用品、WEB等(サイン計画の展示解説、サインも含む)におけるデザイン方針をまとめる

■デザインマニュアルの作成

フィールドミュージアムとして活動するすべての場面で、運営に関わる人々が同じ方針を持って、ビジュアルツールを作成できるよう、上記計画に基づき、マニュアルを整備する

■デザイン戦略の策定

外に向かって、どのようなイメージで、どんなデザイン方針で諸活動を行っていくかの指針と具体的な展開案を策定する

②VIの整備方針

■フィールドミュージアムとして統一感のあるデザインとする

これまでは、パーク、ミュージアム、帆船日本丸、研修施設(訓練センター)等一体感が欠けていたが、今後は統一されたデザイン戦略で一貫性ある情報発信を行うことができるよう、VIを整備する

施設・展示・ICT・サインに先んじてVI計画を策定し、リニューアル全体の設計・制作に反映させ、統一感ある施設をつくり出す

■独自性を大切にし、活用する

当施設の独自または固有の色を大切にし、VI計画に生かす(例えば、帆船日本丸のマストカラー等)



■準拠すべき基準

カラーを選定する際には、下記基準を尊重し、関係機関との事前調整を行う

『みなと色彩計画』横浜市港湾局 昭和62年から実施

『みなとみらい21街づくり基本協定関係集』みなとみらい21街づくり協議会発行 平成17年4月

P19「みなとみらい21地区 建築物色彩計画規準」

2. サイン計画 (1)リニューアル方針

①サインの領域

今回のリニューアルでは、改めてサインの基本機能(施設情報の発信、施設内各所への誘導、施設のアイデンティティの発信)に立ち戻り、下記サインを設置することとする

■パーク内

フィールドミュージアムアピール
(施設名・利用イメージ・入口)サイン

利用案内情報

施設全体配置図

催し物案内情報

見どころ案内情報

展示物解説(キャプション)

誘導サイン

その他

ウェルカム
ボードはこ
れらの情報
を集約して
設置

■施設内:ミュージアム、帆船日本丸、研修施設(訓練センター)

利用案内情報

施設内フロアマップ

催し物案内情報

誘導サイン

室名板

展示サイン

展示項目解説

展示資料解説(キャプションあるいはラベル)

その他

②サインの整備方針

■統一感のあるデザインとする

現在設置されているサインは、一旦すべて撤去する

サイン計画を根本的に見直し、パーク全体で一貫性のあるデザインに統一する

パークやミュージアムおよび周辺的环境を十分に理解した上で、調和のとれたデザインとする

日本丸メモリアルパークⅡ期地区も一貫性ある施設としてアピールするため、同一の方針で整備することが望ましい

■わかりやすさ、利用しやすさを重視する

施設のサインは、あらゆる来館者に「楽しく快適に」施設を利用してもらうためのサービスの一環と捉える

すべての来館者に「わかりやすく、理解しやすい」ということを基本条件にデザインや配置を行う

ユニバーサルデザイン、バリアフリー対策も十分に検討した上で、サインを整備する

効果的な設置場所、デザインを十分に検証した上で制作・設置する

■準拠すべき基準

『横浜市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル』

横浜市福祉局地域福祉部福祉のまちづくり課企画編集

平成10年3月発行 平成17年3月改訂

『みなとみらい21街づくり基本協定関係集』

みなとみらい21街づくり協議会発行 平成17年4月

P29 「みなとみらい21地区 独立広告物設置規準」

2. サイン計画 (2)リニューアルの具体的な展開 主要サイン配置図

ウェルカムボードの設置
 利用者がパーク内に最初に目にするサインボードは、必要な情報を集約して提示する
 フィールドミュージアムのアピール(施設名・利用イメージ・入口)サイン
 利用案内情報
 施設全体配置図
 催し物案内情報・見どころ案内情報(入れ替え可能な仕様にする)

下図は大型の主要サインの配置図
 順路サイン等の位置に関しては、設計段階で検討

- 凡例
- | | | | |
|--|---------------|--|---------|
| | インフォメーション | | コインロッカー |
| | トイレ | | 自動販売機 |
| | 身障者トイレ・多目的トイレ | | 喫茶・軽食 |
| | エスカレーター | | ショップ |
| | エレベーター | | 駐車場 |
| | 乳児用施設 | | 券売所 |



日本丸PRボードの設置
 帆船日本丸の価値と、公開している施設であること、どんな利用ができるのかを紹介する
 催し物案内情報掲示部分は、入れ替えが可能な仕様とする

5章 事業計画

1. 事業体系のリニューアル方針

パーク全体を活用し、市民が「海・港・船」を知り考え、楽しみ憩うことができるよう、7つの事業を展開し、フィールドミュージアムとして再出発する

事業名	実施主体		施設管理者				港湾局
	場所	ミュージアム	帆船日本丸	1号ドック	屋外・タワー棟 研修施設(訓練センター)	パーク全体	横浜港
① 収集・保存・調査研究事業		横浜港に関する調査資料の収集・保存活動 調査研究等	帆船日本丸の保存	ドックの保存	資料の収蔵等		港湾情報の提供
② 展示・公開事業		常設展示 企画展示等	帆船日本丸の公開 展帆展示	ドックの公開	企画展示 屋外展示等		
③ 教育普及事業		講演会、ワークショップ等	ガイドツアー、講演会等		体験学習等	体験学習等	事業支援 情報提供
④ 錬成事業			海洋教室等				
⑤ 交流・市民の活動支援事業			活動の場の提供等		イベント 施設貸出等	ボランティアの導入 施設貸出等 ツアー イベント等	
⑥ 広報・マーケティング事業						広報 宣伝・営業等	
⑦ マネジメント業務						パーク全体の経営 施設・事業の管理・運営 事業・運営の改善	管理指導・支援 施設整備改修
⑧ その他		実習生等の受け入れ					

2. 個別事業計画

①収集・保存・調査研究事業

横浜港に関する資料(屋外の設置物等も含む)の収集、保存、調査研究を行う
貴重な資料を次代につなぐため資料の特性に合わせた保存事業を行う
現役帆船「日本丸」を保存する
重要文化財「1号ドック」を保存する
収集した図書・逐次刊行物の目録等も成果として公開する 等

②展示・公開事業

調査研究事業の成果を、常設展示の更新や企画展示等で公開する
実物資料や模型等を的確に展示するとともに、来館者が参加・体験できる展示を組みあわせ、心に残る展示活動を行う
常設展示は、収集・調査研究に基づき、適宜かつ迅速に更新する
館自主企画による企画展示等を年3回以上(主に春と秋)開催する
その他、海事関連・横浜港関連等当館のコンセプトにあった持ち込み企画や巡回展等については積極的に誘致し、多様な楽しみを利用者に提供する
ボランティアによる帆船日本丸の展帆活動を実施する 等

③教育普及事業

調査研究事業の成果として、セミナーや講座等の教育普及活動を行う
調査報告書、年報、ガイドブック、ペーパークラフト、企画展図録等を出版・発行する
港と船の観察会、映画鑑賞会、ロープワーク講習会、船の工作教室、海事文化講演会、ガイドツアー等の事業を実施する
活動の場所は、ミュージアム、帆船日本丸だけでなくパーク全体を活用し、さらに現地である横浜港でも実施する
研修施設(訓練センター)は、学校団体の休憩・オリエンテーション・昼食の場所として、要望があれば、貸出をし、利用サービスの向上をめざす
ライブラリー事業を実施する(図書・雑誌閲覧、コピーサービス、映像閲覧、情報検索、レファレンス、資料・閉架図書の特別閲覧)
ボランティアの研修事業等を実施する 等

④ 錬成事業

海事思想(シーマンシップ等)の普及を目的とした海洋教室を青少年や企業の社会人を対象に実施する 等

⑤ 交流・市民の活動支援事業

ボランティアの導入や協力体制を強化する

パーク内施設の貸出を行う

パーク内施設を利用した公募展示やコンサート、撮影会等のイベントの主催や支援活動を行う

利用者の利便性・快適性を高めるために、ミュージアム1階の交流空間におけるサービス事業を行う(カフェ・ショップ事業、コンシェルジュサービス等) 等

⑥ 広報・マーケティング事業

パーク全体をフィールドミュージアムとして、広報を展開する(広報:事業内容や活動状況を人々に広く知らせ、理解を求めること)

集客・利用促進を図るため、積極的に宣伝・営業・プロモーション活動を行う

利用者のニーズ、市民のニーズ把握のための調査等を実施し、事業の企画やサービスの改善等に反映させる

パーク全体のリーフレットやセルフガイド、催し物案内等の印刷物を制作・配布する

ホームページの運営・管理を行い、情報の発信に努める

横浜港に関する広報活動も、港湾局と連携を図りながら、リーフレットやパンフレットの配布、情報の発信や検索、レファレンスサービス(コンシェルジュサービス)等を行い、ビジターセンターとしての機能を付加する 等

⑦ マネジメント業務

- ミッションを明確にし、戦略計画を策定し、パーク全体の目標管理システムを構築する
- 常に、横浜マリタイムミュージアム、帆船日本丸、研修施設、タワー棟を含むパーク全体を念頭に置いた上で、効率的且つ効果的な経営を行う
- 利用者の満足度、認知度、利用度を高めるため、市民ニーズを十分に把握した上で、施設(整備・改修等)や事業の管理・運営を行う 等

⑧ その他

要望に応じて、大学の博物館実習生やその他の研修生の受け入れを行う 等

6章 組織計画

1. 運営体制のリニューアル方針

①フィールドミュージアムとして一体的な運営を可能とする体制整備

利用者のサービスや満足度をアップさせるためには、個別の施設毎の管理体制から、事業計画の推進を軸とした一体的な管理体制に整備する必要がある

施設を一括管理し、基本的なテーマを社会に発信していけるようにする

港湾局と指定管理者の協働体制の強化が図れるよう、本パーク全体の総括長を配置する等体制の強化が必要である

②展示の更新・企画開発を行う協力体制やしくみの整備

地域の企業や団体、大学、研究機関、文化施設との地域連携や市民との協力による展示の更新、企画展示を実施できる体制を整備する

例：千葉県立現代産業科学館（展示・運営協力会）

科学技術館（業界団体出展方式）

日本科学未来館（科学技術専門家参画による展示開発グループの設置）等

継続的な協力体制が構築できるよう、ヒアリング調査を行い、計画を策定する

③教育普及活動の支援体制やしくみの整備

市民の協力（ボランティアの導入等）を得て、ガイドツアー、ワークショップ、コンシェルジュサービスの実施（ビジターセンター機能の強化）等、リニューアル後の活動支援体制の整備も図る

継続的な協力体制が構築できるよう、ヒアリング調査を行い、計画を策定する

日本丸の「友の会」のさらなる活動を図ることを検討する（友の会再編についてはヒアリング等による事前調査を実施）

④周辺地域の施設等の協力体制整備

・みなとみらい21地区、横浜港周辺の施設等、開港150周年関連事業との共同広報や事業が継続的に展開できるしくみを整備する

7章 スケジュール計画

1. 中長期のリニューアル方針

本リニューアル終了後も、施設の魅力や価値、利便性や快適性を高め、かつ持続可能な運営を図っていくため、ソフト・ハードの両面から、継続的に改善・更新・蓄積を図っていくことを中長期の基本方針とする

業務領域	概要	平成19年度 2007	20年度 2008	21年度 2009	22年度 2010	23年度 2011	24年度 2012	25年度 2013	26年度 2014	27年度 2015	
1. 施設	パークのアプローチ空間の刷新	設計	施工	リ ニ ウ ー ア ル オ ー プ ン 150周年記念事業							
	フィールドミュージアムらしさの創出	設計	施工								
	ミュージアム等の入口を顕在化	設計	施工								
	ミュージアム1階交流空間の刷新	設計	施工								
	資料保存環境の再整備	設計	施工								
	バリアフリー対策	設計	施工								
	日本丸メモリアルパークⅡ期地区の整備	計画	設計		工事						
	施設補修（日本丸除く）	継続的な取り組み									
	帆船日本丸の補修	継続的な取り組み									
	1号ドック ドライドック					実施予定					
	2. 展示	常設展示のリニューアル	設計		施工		検証・改善				
多言語対応		設計	施工		継続的な取り組み						
コンテンツ制作（映像や解説情報のコンテンツ等）		設計・試作	施工		継続的な取り組み						
展示の更新					継続的な取り組み						
3. ICT	資料・図書のデータベースを含む情報システムの整備	設計・試作	制作	展示等に反映							
	コンテンツ制作（資料や蔵書のデータベース等）	設計・試作	施工		継続的な取り組み						
	多言語対応	設計	施工		継続的な取り組み						
	情報の更新		継続的な取り組み		継続的な取り組み						
	ハードの更新						リース更新（3～5年毎）				
4. VIおよびサイン	VI・デザイン戦略の一新	策定	展開	活動に反映							
	サイン計画	設計	展開	活動に反映	検証・改善						
5. 事業	事業計画の見直し	一部展開	展開		継続的な取り組み						
6. 組織	運営・実施体制の見直し	整備・展開	さらに展開		継続的な取り組み						
					指定管理者選考				23～27年度		



参考資料

1. 横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会関連資料

■横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会 設置要綱

(設置)

第1条 横浜市が所管する横浜マリタイムミュージアムの基本コンセプトを明確にするとともに、展示更新の在り方について策定するため、横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の事項を所掌する。

- (1)施設の基本コンセプトに関すること。
- (2)展示更新の基本構想及び基本計画に関すること。
- (3)検討結果の報告に関すること。
- (4)その他施設の在り方等に関する助言等

(委員)

第3条 委員は、次の各号に掲げる者のうち、港湾局長が任命する。なお、委員の数は10名以内とする。

- (1)学識経験のある者
- (2)博物館及び展示に関する知識のある者
- (3)港湾関係者
- (4)その他港湾局長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は原則として平成19年3月31日までとする。

(委員長)

第5条 委員長は委員の互選により、これを定める。

- 2 委員長は会務を総括し、委員会の議長となる。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(委員会の会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は必要に応じ委員長が召集する。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決するものとし、可否同数の場合は、委員長の決するところによる。
- 3 委員長は、必要があると認めるとき、委員会に専門的事項に関して学識経験者やその他関係者に出席を求め、その意見等を聞くことができる。

(委員の責務)

第7条 委員は、公正、公平に検討を行わなければならない。

- 2 委員は、検討の過程において知り得た情報を公表してはならない。ただし、横浜市が公表した情報及び委員会が公表した情報については、この限りではない。

(検討内容の公表)

第8条 委員会における検討の経過及び結果は公表するものとする。

- 2 委員長は必要があると認めた場合は、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(庶務及び事務局)

第9条 委員会の庶務および事務局は、港湾局振興事業課において処理するものとする。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営について必要な事項については会議で審議のうえ決定する。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年8月9日から施行する。
- 2 第一回委員会については、港湾局長が召集するものとする。

■委員名簿

氏名	所属	分野
◎中村 ひろこ	神奈川大学教授	博物館学
北村 彰	(株)日展 博学支援室長・ディレクター	展示・空間デザイナー
西澤 信一	(有)ヴィジョンクエスト 代表取締役	ミュージアム・情報システム等プランナー
大月 ヒロ子	(有)アイデア 代表取締役	教育普及(エデュケーター)
飯泉 瑞枝	横浜港ポートガイド	市民代表
志澤 政勝	(財)帆船日本丸記念財団 総務課長	学芸員
櫻井 文男	横浜市港湾局副局長	

◎:委員会委員長

2. 市民意見

横浜マリタイムミュージアム展示更新の基本計画を検討するにあたり、市民をはじめとする様々な方からご意見等をいただきました

ここでは、いただいた主な意見等を掲載します

これらの意見等については、当基本計画に反映するとともに、今後、行う設計や施設の運営においても参考とさせていただきます

■施設について

- ミュージアム入口や、桜木町駅・みなとみらい駅方面からの歩行者動線を明確にしてほしい
- 動く歩道からの案内ボードを設置してほしい
- 日本丸が見えるように樹木の剪定等を行ってほしい
- ミュージアム内に休憩所を設けてほしい
- 日本丸の展望所、休憩所、ビアガーデン等を設置してほしい(屋上利用)
- 近くを訪れた人に行ってみようと思わせることが重要だと思う 等

■展示内容について

- 参加型展示や体験コーナー(ロープ結び等)を導入してほしい
- 子どもが楽しめる参加型展示手法を導入してほしい(例えば、網の目に張ったロープを登って、マストの見張り台を模した高台に上がれる遊具、専門のロープの結び方により、一本のロープを作るオブジェ)
- 横浜港と国内外の主要港との比較展示を導入してほしい
- 港の機能と市民が具体的にどのように繋がっているのかが分かるような展示を導入してほしい(物流、港で働く人達、船の建造・運行等に関して)
- 実物(機器、道具、その他)を重視した展示としてほしい
現在の常設展示の一部は映像重視で普偏性がなく、陳腐化している
- 手で触ることのできる展示、匂いを嗅げる「モノ」の展示を導入してほしい
- 展示の説明は、分かりやすい言葉で短いものにしてほしい、解説シートがあると良い

- 横浜港や港に関する情報をホームページやポータルサイト等で入手できるようにしてほしい
今日の状況に関するデータも出してほしい
- ミュージアム内を見えるようにして、入場を促す仕組みづくりが必要だと思う
- 子ども向けの内容にすることは抵抗がある
若い世代を意識する必要はあるが、歯ごたえのある内容にして、興味を持った子はしっかりケアすることが必要ではないか
- 「みなとみらい」に関しては、取り扱わなくても良いのではないか
- 船模型に関するものについては対象を絞ってはどうか
- 船の変遷については、シンプルで、大きさや変化が分かる
最近10年分を補足し、継続してほしい 等

■活動について(提案)

- 大黒ふ頭、山下ふ頭等の見学会を開いてほしい(コンテナターミナル、ガントリークレーン、大型コンテナ船等)
- 飛鳥Ⅱ定期補修や海事艦船建造の見学会を開いてほしい
- 信号所の見学会を開いてほしい
- キャプテン(船長)、パイロット(水先案内人)等によるよもやま話講座を開いてほしい
- 世界の帆船講座を開いてほしい 等

■施設名について

- マリタイムミュージアムは、分かりにくいので変更してほしい
- マリタイムミュージアムという名は、慣れ親しんでいる人もいるため残す日本でのこの名前はここだけなので良いと思う 等

■その他

- 「横浜港コンシェルジュサービス」開始は良い
この博物館は、「観察者」かつ「記録者」であるべきだと思う
- 有料ゾーンと無料ゾーンの境界を巧みに分け、無料ゾーンから有料ゾーンの魅力を感じさせて、入場させる仕組みづくりが必要だと思う
- 産業観光的な視点を導入する必要があるのではないか
- 近隣博物館等とのすみ分けと協力体制を構築することが必要ではないか
- 手旗、灯台等に関するパンフレットがほしい
- 施設内にボランティアガイドを配置してはどうか
- ミュージアムショップを充実してほしい(グッズの充実、入館料不要のPR等)
- トイレを充実してほしい(こども用蛇口の設置、個室の数等)
- 資料収集は、物品、文献共に積極的に行ってほしい
広く港湾関係者等に提供を呼びかけるべきではないか
- 収蔵庫を別に建設しても良いのではないか
- 図書室を充実させ、ミュージアム、日本丸と並ぶ三本柱となってほしい
- 吹奏楽イベントは雰囲気合っていて良い、恒例行事としてPRしてはどうか
- 研修施設やタワー棟については、大いに活用するべきだと思う(例えば、操船シミュレーション等を研修施設への設置する等) 等

参考:市民意見募集について

市民意見等については、次のような機会を設けて集約しました

①ホームページでの意見募集

横浜マリタイムミュージアム展示更新基本計画(中間案)への意見募集

横浜マリタイムミュージアム展示更新への意見募集

②市民団体や関係機関等へのヒアリング及びアンケート

横浜マリタイムミュージアム及び帆船日本丸等 リニューアル基本計画(案)

「みなと横浜フィールドミュージアム基本計画」

■発行日:2007年3月

■発行:横浜マリタイムミュージアム展示更新基本構想等検討委員会

■所管課:横浜市港湾局振興事業課

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町2

電話:045-671-2888 ファクシミリ:045-671-7310

■委員会運營業務委託機関:有限会社プランニング・ラボ

〒171-0052 東京都豊島区南長崎6-5-17

電話&ファクシミリ:03-5983-0592